

(世界史プリント8-4)

第16章 2. ヴェルサイユ体制下の欧米

c. ドイツ革命とワイマール共和国

① 1918[1 十一月]軍港での水兵の反乱をきっかけに革命発生([2 十一月]) →各地で[3 評議会] (評議会) 結成
皇帝が退位し、[4 十一月]を中心に臨時政府成立
↓
社会主義政権をめざす[5 十一月]との対立激化→旧支配階級([6 十一月]ら)と結び共産党を弾圧→ローザ=ルクセンブルク・カール=リプクネヒトら殺害(スパルタクス団の蜂起 1919年1月)

② 1919[7 八月]憲法制定=ヴァイマル共和国の成立
大統領 エーベルト ([8 八月]党
性
格
・憲法の条文の民主性 (主権在民の規定など)
・[9 十一月] [10 十一月]大資本家など旧支配階級がそのまま残る
→[11 十一月]が退位したことを除いては戦前と変わらない
・議会の多党化→政権の不安定さ
・軍部・右翼による反政府運動の発生=カッパー揆, ミュンヘン揆 (ヒトラーら)

③賠償問題の深刻化
ドイツ政府、賠償の支払い猶予の要請→仏・[12 九月]の拒否

→ 1922年、賠償支払いを求めて[13 十一月]地方を占領
↓
ドイツ…消極的抵抗 ([14 十一月]などの実施) で対抗→フランスなど撤退
↓
破滅的な[15 十一月]の進行, 経済の破綻, 政局の混乱

④ [16 十一月]首相[17 十一月]政策の実施, 通貨改革(レンテンマルクの発行)
1923 アメリカの仲裁で[18 八月]案の実施=賠償額軽減, アメリカ資金導入
↓
アメリカ資金の大量導入によって経済再建→復興へ

⑤協調外交の展開=シュトレゼマン外交
1925 [19 十月]条約=西部国境の承認, 国境不可侵などを決める

1926 [20 十月]加入

1929 ヤング案=最終支払い案…賠償額の軽減, 支払期間の延長
→ 1932年 ローザンヌ会議でいっそうの軽減などがされるがドイツ支払い拒否

d. ヴェルサイユ体制下の欧米

①アメリカ合衆国…経済的繁栄を誇る (債務国から債権国へ)
外交→中国の民族運動やドイツ復興を援助
内政→ハーディング、クーリッジ、フーヴァー三代の[21 1920]党大統領つづく
禁酒法制定・移民法によるアジア系移民排斥など保守的傾向進む

②イギリス…2度の選挙法改正で21歳以上の男女普通選挙実現(1928)
労働党、第2党に→ 1924年[22 十月]労働党内閣成立 (自由党と連立)
→ 1929労働党、第一党に、再び政権獲得

アイルランド→シン=フェイン党、大戦中に蜂起
→ 1922自治領[23 12月]成立(北部アルスター地方分離)
→ 1937 エールとして完全独立を実現→アルスター地方の所属をめぐり対立つづく

③フランス…戦争の被害大きい→対独賠償を強く請求
→ 1922ポワンカレ内閣、[24 1922]出兵を強行し、失敗→右派内閣の挫折
↓
1924 ~ 左派連合内閣へ…[25 1924]外相のもとで国際協調外交をリードする

④東ヨーロッパ=チェコをのぞき不安定な権威主義的政権が続く
・ハンガリー… 1919 社会主義革命発生→失敗、権威主義的な政権続く

・ポーランド… 1920 ソヴィエトと戦い、東部に領土を拡大、1926ピウスツキ内閣成立

・セルビアなどが合併→ 1929[26 1929]となる

・チェコスロヴァキア…民主主義的国家樹立